



# 牧之原市の偉人

市には、地域のために尽力した人や熱心に研究を続けた人、文化芸術を極めた人など多くの偉人がいます。人物や偉業を広く市民に知らせるために、11月9日から24日まで、市史料館で「市の偉人展」を開催。市出身の代表的な偉人8人の約250点の品を展示し、約1,600人が訪れました。問い合わせ 社会教育課 長谷川 ☎2646

明治7年(1874年)に堀野新田の農家に生まれ、14歳で上京しました。その後、現在の東京大学で学び、27歳で農学博士になると、ヨーロッパへ渡りタンパク質など栄養素の研究を始めました。帰国後に、米ぬかからオリザニン(ビタミンB1)を取り出すことに成功し、ビタミンの第一発見者となりました。さらには、合成清酒の製造やパトローゲン(育児用粉ミルク)の開発にも貢献しています。



すずきうめたろう  
**鈴木梅太郎** (堀野新田)  
ビタミンを発見した世界的な学者



大学の卒業証書 文化勲章 留学時代の絵はがき



ふじたまさと (細江)  
**藤田まさと**  
作詞家の権利を守り昭和の歌謡界を築く

明治41年(1908年)に細江生まれ、本名は藤田正人。小学生のとき満州に渡りましたが、帰国して大学へ入学。3年生で中退して日本ポリトール蓄音機へ入社し、制作部長や文芸部長を務める傍ら、作詞活動も行い、「岸壁の母」「浪花節だよ人生は」などのヒット曲を作詞。また、音楽家の著作権を守るための活動も積極的に行い、昭和48年(1973年)には日本音楽著作権連合会の会長を務めています。



日本レコード大賞特別賞などを受賞 直筆の歌詞 ヒット曲のレコード

明治42年(1909年)福岡に生まれ、大学卒業後に東京電気化学工業(現TDK)に入社。37歳で社長に就任し、フェライトを使った製品の工業化に取り組み、同社を世界企業に成長させました。平成10年に亡くなった後、故郷の子どものために、多額の寄付をし、17年に「山崎こども教育振興財団」を設立し、教育支援にも大いに貢献しています。



山崎真一 (福岡)  
TDKを世界企業に

幕末から明治初期にかけて、水に恵まれず農作物を作ることが非常に困難だった坂部や細江地区で、私財を投げ打って大井川から水を引く工事にとりかかり、大変な苦勞の末、明治9年(1876年)に用水路が完成。「本間用水跡」として市の文化財に指定されています。



本間賢三 (坂部)  
本間用水を引いた

子どものころから親を大切に、重い病気で歩けなくなった両親をよく看病したことから、明治40年(1907年)に国から表彰されました。



峰松房吉 (片浜)  
親孝行の手本

嘉永5年(1852年)生まれ。茶葉の蒸し時間を長めて、ほんの少しの力加減で揉む「誘進流」を考案。苦みの少ないまろやかで美味しいお茶を作られるようになりました。



戸塚豊蔵 (大江)  
「誘進流」を広めた

明治2年(1869年)生まれ。14歳で「転繰法」を考案し、「倉開流」と名付けられました。静波の伝習所で、全国から集まった人に技術を教えました。



橋山倉吉 (細江)  
手もみ製茶の天才

江戸時代中期に幕府の老中を務め、先進的な政策によって幕府の財政を立て直した偉大な政治家です。意次は、享保4年(1719年)に8代将軍徳川吉宗に仕えた田沼意行の長男として、江戸で生まれました。9代家重、10代家治に仕えて商業を重んじる政策を取り入れ、貨幣改革や殖産興業、印旛沼の干拓や北海道開拓などの事業を手掛けました。相良に領地を与えられ、明和5年(1768年)相良藩主として相良城の築城や道路、港の整備に着工。現在、城があった場所には、市役所相良庁舎や市史料館、学校などが建てられています。町の整備にも積極的に取り組み、現在の町並みの基礎を築きました。



(市史料館蔵)

たぬまおきつぐ  
**田沼意次** (相良)  
江戸幕府の老中  
経済政策で幕府財政を立て直した相良藩主



意次寄進の神輿・馬具

(偉人の画像提供：市教育委員会)